

士別の美術活動史



士別において、西洋画や彫刻など近代的な美術の創作活動が活発に行われるようになるのは、戦中～戦後間もない昭和 20 年代からのことです。この頃に東京藝術大学や北海道学芸大学(現北海道教育大学)で美術の専門教育を受けた学生たちが、卒業後に教職員として士別の小中高校へと赴任して、学校だけでなく地域で美術指導を行うようになりました。



昭和 21 (1946) 年に松永昇まつながのぼる氏を中心となって設立された「蒼土会」(昭和 32 (1957) 年「むうど会」と改称)に始まり、塚本熊雄つかもとくまお氏による「新蒼土美術協会」(昭和 45 (1970) 年設立)、公民館講座の絵画教室が契機となって設立された「士美会」しびかい(昭和 54 (1979) 年設立) など、芸術の芽吹きは市民の中へと広がっていきました。

